

# 集团的自衛権行使を容認する閣議決定の撤回とこれにもとづく法整備は行わないことを求める請願

平成27年2月18日

長野県議会議長

風間辰一殿

紹介議員

請願者 戦争やだね長野集会実行委員会

【代表】和田清二

連絡先：

戦争やだね長野集会 【よびかけ人】 (順不同)	山根敏郎 (守谷商会相談役)	桜井佐七 (桜井甘精堂会長)
	和田清二 (元長野県弁護士会会長)	和田登 (児童文学作家、映画「望郷の鐘」原作・脚本)
	柴村佳奈 (歌手)	目澤民雄 (松代大本営の保存をすすめる会会長)
	窪寺洋子 (カトリック修道女)	佐野美和子 (いづなミツパチの会事務局)
	笠原隆彦 (本願寺長野別院・住職)	山口光昭 (憲法9条を守る県民過半数署名をすすめる会事務局長)
	ほのぼの宙 (ソングセラピスト)	花岡邦明 (松代大本営平和祈念館理事長、長野医療生活協同組合理事長)
	藤原睦明 (上高田保育園長)	田澤洋子 (原発に頼らない未来を創ろうプロジェクト代表)
	山口紀子 (造形作家)	河西弘明 (秘密保護法やだネット長野よびかけ人)
	田島隆 (ひとミュージアム館長)	仲俣範恵 (飯綱町憲法9条を守る会事務局)
	古川富三 (長野と沖縄を結ぶ会)	丸山安昭 (憲法を守る篠ノ井9条の会事務局)
	小川正良 (柳原9条の会)	

## <請願趣旨>

昨年7月1日、安倍政権は従来の憲法解釈を変更し、集团的自衛権の行使を容認する「閣議決定」をしました。一内閣の判断で最高法規の憲法の解釈を勝手に変えるということがそもそもの大問題です。

首相は「イスラム国」による 日本人人質殺害事件を機に、現在開会中の国会で、「閣議決定」の内容に関し、日本の同盟国が先制攻撃を行って報復攻撃を受けた場合でも、日本が集团的自衛権を発動し武力行使することも排除しない考えを示しました。「閣議決定」は憲法9条を破壊し、「戦争する国」「戦争に出かける国」づくりを宣言したことが明らかになってきました。

テロは残虐な行為です。この間、テロが起きると戦争が起き、また新たなテロが生まれるということが繰り返されています。武力でおさえようとするほど、憎しみが広がっています。安倍政権が自衛隊の海外派兵や集团的自衛権など「戦争する国」づくりを推し進めれば、日本はテロの標的になってしまいます。

日本は、アジア太平洋戦争の加害・被害の強い反省から、憲法前文では、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」「平成を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれらの安全と生存を保持しよう」と決意した」といっています。過去の戦争の加害、被害の強い反省から、9条で「戦争しない国」を明記しました。

中東で子ども支援をしている千曲市の西村陽子さんは、イラクの人たちにこう言われたそうです。「日本は、第2次世界大戦で、アメリカに負けて、原爆も落とされた。戦争に負けたけど、その後、どこの国とも戦争をしないで、平和で経済発展を遂げている。イラクも日本のようになりたい。日本のことが好きなんだ」。中東で日本の評価は極めて高かったのです。憲法前文、9条を骨抜きにして、軍勢力とそれによる威嚇力を強めることは、世界の信頼を失う危険な道です。

よって、集团的自衛権行使を容認する閣議決定の撤回とこれにもとづく法整備は行わないことを強く求めます。

## <請願項目>

集团的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、閣議決定にもとづく法整備等を行わないことを求める意見書を政府及び関係行政官庁宛に提出してください。